



巻き取り紙 重さ1200kg

新聞を印刷する前の紙、巻き取り紙が保存されている倉庫を見ました。中はとても広く、見るかぎり、巻き取り紙がたくさん置いてありました。

巻き取り紙には、茶色い紙がまいてあり、それは保護紙といって、巻き取り紙がよごれたり、ぬれたりしないように守る紙だそうです。

巻き取り紙には3種類あり、一番大きいのは、重さが1200kgもあり



原弓琴記者 上田市6年

新聞の用紙は、はい色っぽい

信濃毎日新聞は、長野市と塩尻市に新聞工場があることを知りました。こども記者は塩尻の方へ行きました。

新聞を刷るまきとり紙は、大きい物で重さ1200kgです。一番小さいのは600kgです。新聞の用紙は、最初から白でなく、はい色っぽい色をしていることに気づきました。

できた新聞は、トラック1台に1万2000部ほどを乗せて、はいたつするそうです。私は、そんなにトラックに乗せられると聞いてびっくりしました。



小関そら記者 御代田町4年



新聞を印刷する巻き取り紙の倉庫も見学

運ぶ地いきをバーコードで

新聞は、地いきによって数がちがうので、まちがえないように運ぶくふうをしています。新聞ができたら、まず、新聞を数える機械で地いきごとの部数に分けます。次に、地いきごとのバーコードを読み取り、ベルトコンベヤーでその地いきに行くトラックの場所まで運びます。トラックの後ろにのこり何たばかカウントする機械があって、それを確認しながら運転手さんが積みます。

こういうくふうのおかげで、みんなが毎日、新聞を読めることがわかりました。



宮沢奏太記者 長野市4年



これが印刷に使う刷版です！



先生を務めた中沢信也・塩尻製作センター長

トラックに積み込んで運送します



これが、新聞を印刷するために使う刷版です。信毎長野本社の編集局から届く「紙面情報」を、厚さ0.3mmのアルミ製の板に焼きつけます。黒、青、赤、黄の4つの色ごとにつくられ、文字や写真の部分にはインキ(油性)がつき、ほかの部分には水がつく特別な加工がされています。油と水がはじき合う性質を利用して、きれいな印刷ができます。

トラック26台で北や南に！

ほくが見学で一番心に残ったことは、新聞はどこへ行くの？だれが運ぶの？ということです。まず最初に、何で運ぶでしょう？それはトラックです。トラックがお店に運んで、次にバイクでみなさんの家に配達しています。では、最初に書いたトラックのことを説明します。まずトラックで配達するのに何台使うのかというと26台です。1台にのせられる新聞は1万2000部くらいです。とどける場所で一番遠いところは、北は白馬村のあたり、南は飯田市をこえた静岡県境です。



守谷虎太郎記者 諏訪市4年

大募集「1コマまんがコンクール」 楽しい作品を待っているよ

テーマは「びっくり世界、おどろき体験」だよ

小学生のみんなは最近、わくわく、どきどきしたことはあった？
実現したら面白いと思う夢はあるかな？

1枚の絵にして、信濃毎日新聞の「1コマまんがコンクール」に応募してみよう。

しめきりは11月15日。選ばれた作品は、来年のお正月の紙面にのるよ。



心に残っている出来事に、想像したことをつけ加え、絵にしよたらどうかしら。せりふは、できるだけ使わずにかくんだっ

1コマまんがって、どんなふうにかけばいいのかな

いろいろな絵がかけそうだね。まんがが家になったつもりで挑戦するぞ



入賞すると、賞状や図書カードがもらえるよ

A4~B4の紙に、色鉛筆や絵の具で書いてにゅ〜
絵のうらに、まんがの題名、学校名、学年、名前、住所、電話番号をかくにゅ〜



作品の送り先
〒380-8546 長野市南県町657
信濃毎日新聞社文化部「1コマまんがコンクール」係。
問い合わせは ☎026・236・3165